1993.9.14

舵輪 VOL.8

8月29日 総帆展帆

行われる総帆展帆には、8月29日（日）に行われる8月2名のボランティアの方が参加され、海王丸の横浜の日本丸からも9名のボランティアの方が参加され、畳帆後の反省会で紹介されました。

この日ばかりは、快晴に恵まれ絶好の総帆展帆日和となりました。

訃報

ボランティアの方の訃報が相次いで届きました。

ボランティアNo.77
長井一志さん（39歳）
7月3日逝去

ボランティアNo.80
西野清作さん（79歳）
8月18日逝去

謹んで、故人のご冥福をお祈りいたします。

イルミネーション

さる、8月21日（土）、22日（日）の両日、「サマーフェスタ in 新湊」に合わせて、イルミネーションを実施しました。両日ともに、天気が不安定で、実施が危ぶまれましたが、なんとか天気も持ち、今年最後のイルミネーションを行うことができました。

イルミネーションの準備には、「サマーフェスタ in 新湊」に出店されていた海王丸ボランティアでもある「シーバーズ トヤマ」のメンバーも参加し、午後4時頃から業務課員が約1時間半かけて、行いました。

夕方には、多くの海王丸ボランティアが、夏の終わりのたそがれ時を海王丸パークで過ごされました。

また、イルミネーションのあとかたづけを多くのボランティアに手伝っていただき、本当にありがとうございました。

チョッサーからのお知らせ

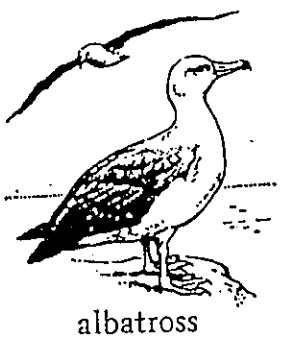
1・海王丸ハンドレール（舷側手摺）のストーン摺り

来る9月19日（日）午後1時30分から、半年ぶりに手摺りの石摺りを行います。体力作り、またストレス解消に役立ちますので、是非ご参加下さい。（雨天決行です。）

2・海洋講座のお知らせ

9月23日、展帆日の海洋講座は、海洋小説翻訳家　大森洋子さんの「海洋小説の舞台を訪ねて」です。スライドも用意していただけるようですし、何といっても、船乗りとは違った、また女性の眼を通した海と船の世界のお話は、大変期待できます。

雨天の時でもお弁当を食べ、海のお話を聞きながら、皆さん一緒に、ゆっくりとした休日を過ごしましょう。



〝夢〟の海王丸?!

ボランティア　野村希世

皆さんは、眠ったとき夢を良く見ますか？私はたくさん夢を見ます。そして、その中には、海王丸や、ボランティア・船員の皆さんも良く登場します。

ある時は、海王丸の中で隠れんぼをしていたら、いつのまにか遠洋航海に出てしまっていて、大慌てした夢。

またある時は、海王丸で遠洋航海に出るぞ！と、はりきって行くともう出発してしまった後で、途方に暮れた夢。

一番印象深かった夢は、長い下り坂の向こうで夕日に輝く静かな海に海王丸が浮かんでいる。

そして、その坂をガラスの板をたくさん積んだ小さなトラックがゆっくり上がってくる夢。

さざ波輝く海に浮かんだ海王丸は、夢のように（だから夢なんだってば）美しかったです。

これは、先日の夢のお話。私は、海王丸で航海をしていました。海王丸の上は、飲めや歌えの大宴会で大騒ぎ。その時、海王丸の操舵をしていたのは川路さんでしたが、飲酒運転（飲酒操舵っていうのか何かにどっかーん！と座礁してしまいました。なぜか、釘本さんの奥さんが経営している（シンガポールのシンガポールでライオンの顔に魚の体を持つ像）の玄関においてあるマ中。そして、超高級中華料理屋（そこは中華街のど真ん中）を見ると、なんだ？と海王丸の外ぶつかり、ぶつかり、ぶつかり、

ヤッ！！カラー写真だ。これが、俺の胃の中か、きれいな色をしているな。アーンと開けた口の中と同じやないか。感心していると、

「これ、ポリープです。」

「丸い盛り上がりがある。これをとって、検査します。」

と、言うや否や、インターン先生が持ってきた長いワイヤーを蛇の中へザーッと通すと、その先端がポリープめがけて突進して食いついたと思うと、血が出る。これで終わり。

「血が吹き出して、びっくりされたでしょうが、拡大していますから、本当は小さなものです。心配しないでください。」

血がでることなんか、何でもないポリープがあったことがショックなのだ。

さて、わたしにとって一枚の写真、一瞬見たあの胃の中のカラー写真、その色、輝き、生々しさ、つややかさ、というものは到底忘れられるものではない。なんという鮮やかな。

今まで60数年間、毎日送り込んだ食物をひたすら消化し続けてくれた胃の素顔は、これだったのかと思うと何だかとてもいとおしくなった。どうするのがいいのかわからないが、とにかくいたわってやらねばと思う位だ。

新たに加わった私の忘れ得ぬ1枚の写真の話。

内緒の話

網島　重胤

海王丸2世完工目前の一日、造船所関係者及び航海訓練所よりの代船建造調整室一同とのパーティが開かれ、住重（住友重工業浦賀ドック）OBの一人の関係者と二次会で飲む機会を得た。

話はいつしか船首像の事へ。

「日本丸の藍青（日本丸の船首像）の目線が下を向いているため、入水を感じさせる思いをさせる、もっと人によっては受ける、もっと顔が上がっている方がいいと思う」

「海王丸の紺青（海王丸の船首像）女性像）については、その様な事も少しは考慮されたと聞いたが・・・？」

「よし、私がもっと紺青の顔を上に向かせてやろう。いいね、ボ

この様な話のあと、甲板部の年寄り連中と住重OBが、酔った勢いで、不らちな事を相談した。

平成元年9月16日海王丸2世完工、受取り、実習生も乗船して浦賀を後にする。

海王丸2世新聞創刊号によれば、風雨をものともせず、実習生達のフライングジブ（バウスプリット先端）詣でが続いたとか。

フライングジブのハンク止めに見事な・・・？。

男性のシンボルがそそりたっていた。

「祈、安全航海　金玉照　作」

の文字と共に。

金玉照まん中の文字は○○と読まないで下さい。上下の関係で非常にいやらしい響きを感じます。

後で聞いた所によりますと、その住重のOB、以前、韓国に住んでいた事があるそうで、氏を金と名乗っていたとか・・・。

特に海王丸には研修制度もあり、女性も多く乗船する事とて・・・大目玉を覚悟したが、事なきを得る。

何年か後に、縁あって、再びお目にかかれる機会を得たが、新しい頃の木の艶や色がなくなり、逞しさも失せ、昔日の面影はない。

私自身への想いも重なり、お前も年を取ったなあ・・。

と、これはまたはしたないことを！！

波の彼方で・・・

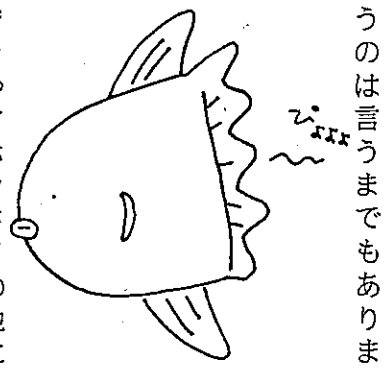
練習船での航海中の様子を紹介しているこのコーナーですが、今回は航海中に出会う海の仲間を紹介します。

「右舷前方にクジラ！」

当直にあたっている実習生からの船内放送。船内から一斉に実習生が甲板上に駆け上がり、わっと人がきができる。

前方の海面からつややかな胴が見えかくれし、時折「ブシュー」という空気を吐き出す音と一緒に巨大な水柱を吹き上げる。一同その勇壮な海の王者の姿にしばし賑わった。長い遠洋航海では、乗組員以外の生物がむしょうに恋しくなります。そんな時、気持ちを慰めてくれるのが、鳥や魚たちの海の仲間です。

東京を出港してその翌日から、まず四、五羽のアホウドリがずーっとついてきます。風の日も嵐のときもそのひょうひょうとした姿の去る日はありません。船尾から残飯を捨てると彼らはすぐ近くに着水しエサをあさり始めます。彼らにとって自分で魚を取るよりもこの残飯あさりの方がずっと効率が良いのかも知れません。時折、本船の船尾から流している釣り針をアホウドリが誤って飲み込んでしまうことがあります。もちろんすぐに甲板上に引き上げ介抱してやります。但し、彼らは甲板上からは飛び上がれないため、しばらくは我々との記念撮影の相手となってもらうのは言うまでもありません。



クジラやアホウドリの他にイルカ、ウミガメ、アシカ、マンボウなどがやってきて、退屈な我々の目をなごませてくれます。特にマンボウは実習生に絶大の人気があり、「マンボウ発見」の知らせがあると、カメラを手にした連中がどっと出してきます。我々士官もついい手持ちの双眼鏡でのぞいてしまいます。当のマンボウは、海面すれすれのところで白い腹を横にして寝そべり（？）、胸ビレをパタパタさせてのご挨拶。なんとも愛嬌のある姿です。

帆船はノロく、舷側が低く、波がすぐそばまできてはじけます。しかし、それ故に海に生きる「仲間」達を身近に感じ、たわむれることができるのでしょう。この海と共存していかねばならないことを改めて自覚させられます。

（川路）

あとがき

先日、横浜の帆船日本丸記念財団に行く機会があり、数カ月ぶりに日本丸を見てきました。

日本丸は後ろに、日本一高い「ランドマークタワー」が控えており、あまりその高さを感じさせません。

それに較べ、わが海王丸は、周りに大きな建物はなく、一際その存在を主張しています。

試みとして始めた「舵輪」も、これで8号目。ボランティアの方に支えられて、なんとか続いています。ボランティアの方からの投稿も少しずつ増えてきました。

そして、総帆展帆にしばらく参加しておいでなかったボランティアの方にも、また参加していただけるようになり、大変感謝しております。

しばらく、海王丸から遠ざかっておられる、ボランティアの方も久しぶりに海王丸のマストに登ってみられてはいかがでしょうか。

富山県の海王丸も、残り1年、ボランティアの方、富山県民に愛される海王丸でありたい、と考えます。

（望遠鏡）